

科目名	児童への特別な支援						
科目名(英)	syougaijihoiku						
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	瀧口直子	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験	児童発達支援センター・心身障害福祉センター 保育士・臨床発達心理士	
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	様々な障害の特徴とその人たちが感じている困難さを、本人の目線に立って理解し、基本的な生活習慣の獲得、集団生活・遊びの指導・援助をできるだけ具体的に考えることができるようになる。また、保護者やきょうだいが抱えがちな悩みや困難を理解し、子育て支援を考える。さらに、関係機関との連携の進め方を理解し、それぞれのライフステージで求められているネットワークづくりやチームでの地域支援体制について考える。						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					様々な障害の特徴とその方たちが感じている「困り感」を説明できる	
	○					0歳からの療育の必要性と療育のポイントを説明できる。	
	○					様々なアプローチについて簡単に説明できる。	
		○				それぞれのライフステージにおける関係機関の連携・ネットワークの実際を調べる	
		○				障害の特徴と発達段階を考慮した個別支援計画の実際を学び、具体的な配慮について考える。	
				○		障害や発達のアンバランスがあるために生きにくさを感じている方の目線で必要な配慮ができる。	
テキスト・教材 参考図書	「よくわかる障害児保育」ミネルヴァ書房、その他は授業で紹介します。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	乳幼児期の保育療育(1)保護者の思いに寄り添う支援					
	2	乳幼児期の保育療育(2)「育ちの根っこ」を育てる療育					
	3	乳幼児期の保育療育(3)実践について～教材を吟味する～					
	4	DVD鑑賞「奇跡の人」＊生活の中の具体的な体験と丁寧なかかわりの大切さ ＊その子自身の“ねがい”に寄り添う					
	5	学齢期の発達保障(1)放課後活動だからできること＊放課後等デイサービスの実践から学ぶ					
	6	学齢期の発達保障(2)障害の重い子どもたち⇒「夜明け前の子どもたち」より考える					
	7	青年・成人期の自立を考える(2)「自分らしく生きる」ということ⇒青年・成人期の自立(2)DVD「マラソン」鑑賞(前半)					
	8	青年・成人期の自立を考える(2)「自分らしく生きる」ということ⇒青年・成人期の自立(2)DVD「マラソン」鑑賞(前半)					
	9	補講①：20歳の発達障害の女性は、なぜ自殺しなければならなかった？					
	10	補講②：出生前診断について～優性思想を問う～					
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	授業中のワークや小レポート、まとめの筆記試験、授業中の態度・意欲などの総合評価で行います。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
	発表・グループワーク	○	○		◎		10%
履修上の注意							

科目名	乳児保育Ⅰ						
科目名(英)	infant nurseryⅠ						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	眞崎 明日香	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験	乳児院において、保育士として勤務	
対象学科・学年	社会福祉学科3年生						
授業概要	近年少子化にもかかわらず社会的需要が高まる乳児保育。子供が成長するうえでの基礎となる生活習慣、愛着形成などの発達課題を学び、乳児そのものへの愛情深い関わり、発達の理解と乳児保育の技術を習得する。また乳児保育を実践するための責任感や心構えを考察を通してより深く自覚していく。						
授業形式	講義　○		演習：　△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○　その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				乳幼児の発達の道筋に沿ったかかわりへ応用することができる。	
	○					乳児保育の目的・役割や課題について考え、説明することができる。	
		○				乳幼児期の保護者の気持ちを理解して悩みを共有したり寄り添う対応ができる。	
			○			わらべ歌や手遊び、絵本などの保育を適材適所実践できる。	
		○				乳児の個性や発達状況、主体性を尊重した対応ができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業ガイダンス 乳児保育の必要性				パソコンを準備すること	
	2	乳児保育の基本的な知識と理解				パソコンを準備すること	
	3	胎児期、乳児の発達を捉える				パソコンを準備すること	
	4	乳幼児の発達(0～1歳)				パソコンを準備すること	
	5	乳幼児の発達(1～2歳)				パソコンを準備すること	
	6	乳幼児の遊びと環境構成				パソコンを準備すること	
	7	乳幼児の健康観察、子どもの病気				パソコンを準備すること	
	8	戸外保育と安全管理(東領公園)					
	9	手遊び、わらべうたの役割と理解					
	10	乳児のこころと愛着形成				パソコンを準備すること	
	11	0～2歳乳児と遊べる玩具制作				授業内で使用する用品を準備すること。	
	12	乳児院における乳児保育の基本的知識				パソコンを準備すること	
	13	乳児院の養育 応用				パソコンを準備すること	
	14	エピソードワーク①乳児保育シミュレーション					
	15	振り返り 受け入れ演習				パソコンを準備すること	
評価方法	(1)正試験の実施(2)授業への取り組み(3)乳児保育に関する発表内容　以上を以下の観点・割合で評価を行う。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	授業への取り組み				◎		10%
	発表内容		◎		○		10%
履修上の注意							

科目名	乳児保育Ⅱ SC						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	眞崎 明日香
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	乳児院において、保育士として勤務
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	乳児保育のスクーリングでは通常授業の応用として演習を行う。シミュレーションにて多職種連携によるそれぞれの役割を学ぶ。グループ演習で、施設についての理解を深める。						
授業形式	講義 ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	△	○				乳児院や施設における事例を検討し、問題解決方法を導き出すことができる。	
				○		グループのメンバーと協働し、積極的に発表、表現ができる。	
	△	○				多職種連携における個々の役割を理解し違いを説明することができる。	
		○				振り返りを通して、個人やグループに足りない点を考え、次に活かすことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目 乳児院・児童養護施設等各施設の事例検討					
	2	1日目 乳児院・児童養護施設等各施設の事例検討 計画					
	3	1日目 乳児院・児童養護施設等各施設の事例を基に劇作り					
	4	1日目 乳児院・児童養護施設等各施設の事例検討の劇練習					
	5	2日目 乳児院・児童養護施設等各施設の事例検討の劇練習					
	6	2日目 乳児院・児童養護施設等各施設の事例検討の劇発表					
	7	2日目 乳児院・児童養護施設等各施設の事例検討の劇発表					
	8	発表の振り返り、まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	SCの出席、発表内容 以上を以下の観点・割合で評価を行う。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SCの出席					○	10%
	グループ内での協働・参加状況				◎		50%
	発表への準備と実践の状況	○			○		40%
履修上の注意	近大のSC履修の規定により、遅刻・欠席は単位修得不可とする。						

科目名	子どもの健康と安全 SC									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		川端 いづみ	
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		養護教諭・放課後等ディCEO	
対象学科・学年	社会福祉科3年生									
授業概要	子どもの健康と安全について考え、現場で役立つ救急時の対応を身につける。また、赤ちゃんの沐浴や抱き方、布おむつの替え方を習得する。									
授業形式	講義： ○		演習： ○		実習：		実技： △		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
		○	○	○		救命救急の方法を理解し、実践できる。				
		○	○	○		赤ちゃんの抱っこ、沐浴、おむつ交換を実践できる。				
		○	○	○		バイタルチェック、包帯法、止血法を習得できる。				
	○	○		○		グループでの活動に積極的に参加し、自分だけでなくメンバーにより影響を与えることができる。				
テキスト・教材 参考図書	「よくわかる子どもの保健 第3版」									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	子どもの健康と安全についての概念					スクーリングのオリエンテーションと目標設定			
	2	新生児の抱き方、おむつ交換の演習とテスト					モデル人形を使って練習し、グループ全員が合格するまで協力してテストを受ける			
	3	沐浴の演習とテスト					モデル人形を使って練習し、グループ全員が合格するまで協力してテストを受ける			
	4	新生児、乳児、幼児の心肺蘇生、法演習とテスト					モデル人形を使って練習し、グループ全員が合格するまで協力してテストを受ける			
	5	バイタルサインの測定、演習とテスト					モデル人形を使って練習し、グループ全員が合格するまで協力してテストを受ける			
	6	包帯法、演習とテスト					モデル人形を使って練習し、グループ全員が合格するまで協力してテストを受ける			
	7	子どものケガ及び安全対策、応急処置の方法、演習とテスト					モデル人形を使って練習し、グループ全員が合格するまで協力してテストを受ける			
	8	2日間のまとめと振り返り					モデル人形を使って練習し、グループ全員が合格するまで協力してテストを受ける			
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	対面授業への参加状況と、意欲、達成度を評価する。成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	演習とテストの技能点		○	◎	○		50%			
	グループ内での協働・参加状況				◎		20%			
	振り返りのレポート作成		○				30%			
履修上の注意	遅刻欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。									

科目名	障害児保育SC						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	渡辺裕子
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	元児童発達支援センター施設長
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	本スクーリングでは、1日目に児童発達支援センターでの1日体験を行い、この体験をベースに2日目には園長先生による講義を実施する。この2日間を通して、障害を持つ子どもたちとその家族に必要な保育・支援の基礎的理解が深まることをめざす。						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	◎		○		児童発達支援センターの園児との関わりを通して、児発の役割や保育内容を理解する	
	○	◎		○		園長先生の講義を通して、児発の役割や保育内容の理解を深めることができる	
				◎		障害を持つ子どもとその家族について関心を持ち、保育士に求められることを考える	
		◎		○		グループワークに積極的に参加し、事例分析を行うことを通して、	
テキスト・教材 参考図書	特になし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目 児童発達支援センターの概要説明				園長先生より講義	
	2	1日目 児童発達支援センターの保育参加				グループに分かれて各クラスの保育に入る	
	3	1日目 体験を通しての疑問、改めて児発センターの役割を知る				保育に入って感じた疑問等を質問し、児童発達支援センターや専門職の役割や現状について学ぶ	
	4	1日目 振り返りのレポートを記入				体験しての感想レポートを記入し提出	
	5	2日目 レポートより質問に答えて				園長先生より前日のレポートからの疑問に答えて知識の深堀りを行う	
	6	2日目 事例の検討(グループに分かれて)				事例を提示し、グループで検討し、劇にして発表するための準備を行う	
	7	2日目 事例検討の発表(劇にする)				劇の発表と質疑応答	
	8	2日目 全体を振り返って				全体の講評とまとめの講義	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	保育への参加状況				◎		20%
	振り返りのレポート①	◎			○		30%
	グループワークへの参加状況	○	◎		○		20%
	振り返りのレポート②	◎	○		○		30%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	社会的養護Ⅱ SC						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	中山八保子
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	本スクーリングは保育実習(施設)及び保育実習Ⅲの実習指導の一環として行い、授業の中で施設の概要の理解や児童・利用者の理解を習得した上で、「実際に実習に行った際にこのようなケースに遭遇した時どうするか?」というシミュレーションを行う。この取り組みを通して、実習時にトラブルに遭遇した際の対応方法を事前に考えられるようにしたい。						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	◎				実習で実際に起こりうるケースを検討し、その際の対応方法を考えることができる	
	○	◎				授業で学んだ知識を応用し、積極的にアイデアを出すことができる	
	○			◎		グループにおいて積極的な協力を実践することができる。	
	◎	○				振り返りを通して、個人やグループに足りない点を考え、次に活かす事ができる。	
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』石橋裕子・林行範著 同文書院 『よくわかる社会福祉第10版』山懸文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房 卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』実習指導資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	実習先の種別毎にグループに分かれ、そこで遭遇する状況を想定した課題を与えられる(例: 試し行動を繰り返す子どもをどのように理解し、関わりを持つか?)				自立支援施設・児童養護施設・障害児入所施設・児童発達支援センターのグループ	
	2	グループで事例の分析と対応方法等について検討を行う				事例についてグループで検討を行う	
	3	台本作り				事例の検討がすんだら、その内容も含めた台本の作成	
	4	練習				シミュレーションを繰り返し、その内容を適宜、修正する。そのことでブラッシュアップを図る。	
	5	リハーサル(担当教員に見てもらう)				シミュレーションを繰り返し、その内容を適宜、修正する。そのことでブラッシュアップを図る。	
	6	修正作業と練習				シミュレーションを繰り返し、その内容を適宜、修正する。そのことでブラッシュアップを図る。	
	7	劇発表と意見交換				2グループの発表→意見交換	
	8	劇発表と意見交換・全体のまとめ				2グループの発表→意見交換 全体のまとめ(教員より)	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				◎		20%
	発表への準備と実践の状況	○			○		50%
	振り返りのレポート作成		○				30%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	保育実習事前事後指導 I (施設)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	中山八保子
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	保育士、児童養護施設、児童発達支援センターにて保育士
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	本スクーリングは保育実習(施設)の実習指導の一環として行い、授業の中で児童養護施設の概要の理解や入所児童の理解を習得した上で、実際に児童養護施設へ見学に行き、現場の職員の話を聞く事によって児童養護施設のみならず他の児童福祉施設や社会的養育ビジョンについての理解と関心を深めることをめざす。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		児童養護施設の見学を通して、施設の理解や入所児童についての理解が深まる	
		○				これまでに学んだことと結びつけて理解ができる	
				○		学ぶ姿勢を身につけ、積極的に質問を行ったり、視野を広げようと努力できる	
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』石橋裕子・林行範著 同文書院 『よくわかる社会福祉第10版』山懸文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房 卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』実習指導資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	児童養護施設「嘉麻学園」見学				9:00出発→10:15着 10:15～12:00 見学と説明 12:00～13:30 帰校	
	2						
	3						
	4	学校に帰って振り返り				14:30～グループで振り返り 質問に答えて授業	
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	見学態度・質問の有無	○			◎		50%
	レポート	○			◎		50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	保育実習事前事後指導ⅢSC						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	中山八保子
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	「保育実習」での自己評価と課題・反省を踏まえ、今後自身が保育者として働く上で必要な心構え、スキルについて再確認を行う。また、教材研究を行い、自身の長所を生かせる保育を創造していく。						
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				自身の課題・今後の学習課題について再確認することができる。	
		○				保育者になるという前提をもとに明確な実習に対する目標を持つ事ができる。	
			○			教材研究を通して自身と向き合い、自身の強みに気付くことができる。	
				○		自身の強みを保育に活かし、より実践的な教材研究を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 日 目	実習目標シート作成					
		保育教材発表①					
		保育教材発表②					
		講義『今までの実習の振り返りを踏まえて』					
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)SCの出席(2)授業への参加意欲・発表(3)事後レポートを以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SCの出席					○	10%
	授業への参加意欲・発表		○		◎		50%
	レポート	○	◎				40%
履修上の注意	遅刻・欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	相談援助実習指導Ⅲ						
科目名(英)	Social Work Field Instruction Ⅲ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山八保子・川原ゆり・若狭恵美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	養護教員、児童福祉施設保育士		
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	この科目は、社会福祉士の養成科目であるが、社会福祉科は保育士を同時に取得する学科であり、学生の大半は児童関係の仕事に就きたいと考えている。したがって、3年の夏に実施される「保育士」資格を取得するための「保育実習(施設)」と「保育実習Ⅲ」(施設実習)の指導を行う科目と位置づけている。具体的には、児童福祉施設の基本的知識、特に施設の目的や対象児童の特徴、職員の職種と仕事内容、歴史、支援内容、課題等について学び、児童施設実習がより有意義になるように指導を行う。						
授業形式	講義：○	演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			△		児童養護施設についての基本的知識について学び、説明できる。	
	○			△		その他の児童福祉施設についての知識について学び、説明できる。	
	○			△		児童福祉施設で働く職員について学び、自分自身についての理解を深める。	
	○			△		実習に向けての意識と自覚を高め、実習に前向きに取り組めるようになる。	
	○			△		児童福祉施設の児童や利用者への支援内容について理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』石橋裕子・林行範著 同文書院 『よくわかる社会福祉第10版』山懸文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房 卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』実習指導資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	児童養護施設の理解～施設の概要を熟読する				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料	
	2	児童養護施設の理解～施設の概要を説明する(発表)				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料	
	3	児童福祉施設の理解～施設の概要を調べる				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料を基にパワーポイント作成	
	4	児童福祉施設の理解～施設の概要を調べる				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料を基にパワーポイント作成	
	5	児童福祉施設の理解～施設の概要を調べる				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料を基にパワーポイント作成	
	6	オリエンテーションの指導				プリント	
	7	児童福祉施設の理解～施設の概要発表①乳児院				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	8	児童福祉施設の理解～施設の概要発表②児童自立支援施設				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	9	児童福祉施設の理解～施設の概要発表③児童心理治療施設				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	10	児童福祉施設の理解～施設の概要発表④母子生活支援施設				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	11	児童福祉施設の理解～施設の概要発表⑤障害児入所施設				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	12	児童福祉施設の理解～施設の概要発表⑥児童発達支援センター				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	13	実習日誌の指導～考察をどのように日誌に書くか				映像を見て記録を書く	
	14	日誌の指導、直前指導				前回の記録の添削より	
	15	実習1回目の振り返り				実習の振り返り	
評価方法	(1)授業の出席状況。 (2)調べ学習への取り組み状況と理解度。 (3)調べ学習の内容を試験の代わりとするため試験は行わない。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	調べ学習①	◎	◎		◎		30%
	調べ学習②	◎	◎		◎		50%
	発表・グループワーク	○	◎		◎		10%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価の対象としない。						

科目名	相談援助の理論と方法Ⅲ						
科目名(英)	Theory and method of consultation assistance Ⅲ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	川原ゆり
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	障害児治療教育センター相談員・養護教員
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	この科目は、社会福祉士の養成科目であり、3年間の集大成としての科目であるため、改めてソーシャルワークとは何か、ソーシャルワークの歴史と現状、未来について考える。同時に残り半年で現場に出る学生たちに、自分たちは専門職として働くと言う自覚を養い、プロとして働けるような知識と価値を身につけてもらいたい。						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		△		ソーシャルワークの「価値」について学び、同時にソーシャルワーク理論と方法について理解する。	
		○		△		「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。	
		○		△		各分野のソーシャルワークの歴史と現状、未来について理解できる。	
		○		△		ソーシャルワーカーをめざすために自分自身を振り返ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	『よくわかる社会福祉第10版』山懸文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ソーシャルワークとは何か？各分野のソーシャルワーク				理解度確認テスト	
	2	専門職の役割				映像鑑賞→グループワーク	
	3	専門職の役割				映像鑑賞→グループワーク	
	4	ソーシャルワークの新しい分野～更生保護・刑務所・少年院等				映像鑑賞→グループワーク	
	5	現代社会とソーシャルワーク～児童福祉とソーシャルワーク①				講義→グループワーク→講義	
	6	現代社会とソーシャルワーク～児童福祉とソーシャルワーク②				講義→グループワーク→講義	
	7	現代社会とソーシャルワーク～児童福祉とソーシャルワーク③				講義→グループワーク→講義	
	8	現代社会とソーシャルワーク～格差社会				講義→グループワーク→講義	
	9	現代社会とソーシャルワーク～格差社会				講義→グループワーク→講義	
	10	障害者福祉の今とこれから①				講義→グループワーク→講義	
	11	障害者福祉の今とこれから②				講義→グループワーク→講義	
	12	地域社会の今とこれから①				講義→グループワーク→講義	
	13	地域社会の今とこれから②				講義→グループワーク→講義	
	14	まとめ				講義→グループワーク→講義	
	15	正試験対策					
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加態度。 (2)内容の理解度。 (3)定期試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	毎回の感想文		◎		◎		10%
	授業への参加度				◎		30%
	意見発表・グループワーク	○	◎		◎		30%
	出席状況				◎		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価の対象としない。						

科目名	社会保障Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	宮井浩志
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院にてMSWとして勤務
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	社会福祉士が相談援助を行う際に必要な社会資源及び諸制度等は社会保障制度に付随しているものである。社会保障制度を活用は必須条件であり、幅広い分野の知識を獲得する必要がある。この科目では、実践に必要な諸制度の概要及び活用法を学んでいく。						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				各制度の概要について説明することができる	
		○				支給要件や留意事項を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	社会保障入門						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	医療保険制度の理解-保険の種類や医療制度の仕組み					
	2	医療保険制度の理解-診療・休職に関する費用					
	3	医療保険制度の理解-出産に関する費用					
	4	医療保険制度の理解-死亡に関する費用					
	5	年金保険制度の理解-被保険者の種類					
	6	年金保険制度の理解-老齢年金					
	7	年金保険制度の理解-障害年金					
	8	年金保険制度の理解-遺族年金					
	9	労働者災害補償保険制度の理解-概要・認定条件					
	10	労働者災害補償保険制度の理解-医療分野					
	11	労働者災害補償保険制度の理解-年金分野					
	12	労働者災害補償保険制度の理解-休職分野					
	13	雇用保険制度の理解-概要					
	14	雇用保険制度の理解-諸制度					
	15	全体のまとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	発言・質問・学習姿勢				◎		30%
履修上の注意							

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅰ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	高崎修一	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験	民生委員・児童委員として地域福祉に関与	
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	地域福祉の大切さを学習する。そのために地域福祉に関する考え方、言葉などを理解してもらい、先人たちがいかに福祉に関わり社会福祉とは地域福祉を推進することであるといわれるまでの歴史をたどってきたか、またその歴史に学ぶところはないかを考えていただきたい。そして後期の地域福祉の実践につながる授業を行う。						
授業形式	講義：	○	演習：		実習：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					地域福祉に関わる言葉の理解。	
		○				基礎的知識をつけそれを応用できる人材を目指す。	
				○		授業に対する熱意、地域福祉に如何に関わっていけるのかの理解。	
テキスト・教材 参考図書	「よくわかる地域福祉」ミネルバ書房5版、自己作成プリント、参考図書「コミュニティソーシャルワークの理論」大橋謙策氏 厚生労働省参考資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	地域福祉とは、地域とは、福祉とは、日本の福祉に関わる現状とは				授業外学習は特に行わないが、法、制度の改正などに関して常に注意を喚起する。 以下同じ	
	2	福祉サービスとは、福祉専門職の心構えとは、地域福祉の必要性					
	3	地域福祉の登場の背景。相互扶助、結、もやい、講など					
	4	地域福祉の2つの機能。個別支援的、地域支援的機能、実践事例					
	5	社会福祉基礎構造改革の必要性と地域福祉の理念					
	6	地域福祉の構成要素。岡村、右田、永田他の理論。「コミュニティ構築とまち・ひと・しごと創成法」とは					
	7	地域福祉用語：コミュニティケア、ノーマライゼーション等					
	8	地域福祉用語：ボランティア、協働・パートナーシップ等					
	9	地域福祉用語：エンパワメント、アドボカシー、地域自立生活等					
	10	H30年4月施行社会福祉法一部改正による地域福祉計画の見直し。 英国福祉の歴史的展開：ヘンリー8世以降					
	11	英国福祉の歴史的展開：ブレア・ブラウン迄、米国福祉の歴史的展開					
	12	米国福祉の歴史的展開：オバマケア迄					
	13	日本の福祉の歴史的展開：仏教伝来、福田思想、～戦前迄					
	14	戦後の福祉3法、6法～地域福祉のあり方研究会報告。					
	15	地域包括ケアシステム、地域共生社会の実現、社会福祉法改正等					
評価方法	前期は章ごとの小テストは実施せず正試験での評価がほとんどを占めるが、授業態度、取り組む姿勢なども考慮する。 評価基準は当校の評価基準にて5段階評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	正試験	○	○				90%
	授業態度				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は正試験(定期試験)の受験資格を与えないものとする。						

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		門田雄一	
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		元ゆたか学園園長	
対象学科・学年	社会福祉科 3年生									
授業概要	現代の子供・家庭が抱える諸問題を理解し、かつ取り巻く社会制度・法律・福祉施策・支援機関を知る。									
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○					子供・家庭が抱える問題点の理解				
	○					関る法律・制度の理解				
テキスト・教材 参考図書	なし									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	少子化問題を知る。								
	2	家庭機能の変化を知る。								
	3	児童福祉法・児童手当法等の変遷を知る。								
	4	社会保障を知る。								
	5	保育所制度を知る。								
	6	社会的養護制度を知る。								
	7	障害福祉制度を知る。								
	8	母子福祉制度を知る。								
	9	児童自立支援制度・少年非行問題を知る。								
	10	虐待・不登校等について知る① 現状を知る。								
	11	虐待・不登校等について知る② 支援方法等課題を知る								
	12	赤ちゃんポストを知る。								
	13	高齢化と少子化問題の関連を知る。								
	14	児童福祉の世界の現状を知る。								
	15	児童福祉の課題と将来について考える。								
評価方法	以下の項目にて評価 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		◎					80%		
	発表・授業態度					◎		20%		
履修上の注意										

科目名	福祉行財政と福祉計画						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	大坪秀生	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験	高齢者施設での相談業務 施設の運営管理	
対象学科・学年	社会福祉科 3年生						
授業概要	●単なる座学で終わらない、グループワークやディスカッションに取り組み言語化していく。 ●専門科目のみに収まらない「社会福祉士」としての職業倫理を学び考える。 ●社会人としての心構えを学び意識していく。						
授業形式	講義：	○	演習：	△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○	○	行政や財政が自分たちの生活にどのように関わっているのかを知り、言語化できる。	
	○	○		○	○	行政用語や仕組みを学ぶことで身近に感じ、それが活かされる生活に場面をイメージできる。	
	○	○		○	○	財源や税金の在り方を学ぶことで、お金の大切さや税金の意義を知り、実際の生活に結び付けることができる。	
	○	○		○	○	計画の立て方やその後に行うことを学び、実生活に活かし目標を達成に向けて取り組むことができる。	
		○		○	○	進路について真剣に考え、就職等に向けて計画に基づいて行動することができる。	
テキスト・教材 参考図書	◎新社会福祉士養成講座『福祉行財政と福祉計画』 ○社会福祉士養成講座研修委員会 中央法規 時事話題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション				この科目の注意事項を伝えます	
	2	福祉とは その成り立ち				ニュース・新聞等で自治情勢を知る	
	3	福祉と制度				ニュース・新聞等で自治情勢を知る	
	4	行政の骨格				ニュース・新聞等で自治情勢を知る	
	5	福祉行政の組織				ニュース・新聞等で自治情勢を知る	
	6	社会福祉基礎構造改革				ニュース・新聞等で自治情勢を知る	
	7	行政の相談窓口				ニュース・新聞等で自治情勢を知る	
	8	知識チェック				ニュース・新聞等で自治情勢を知る	
	9	予算と財政(国の収支)				ニュース・新聞等で自治情勢を知る	
	10	予算と財政(地方の財政)				ニュース・新聞等で自治情勢を知る	
	11	計画とは？				ニュース・新聞等で自治情勢を知る	
	12	福祉におけるニーズ把握				ニュース・新聞等で自治情勢を知る	
	13	福祉計画の理論と技法				ニュース・新聞等で自治情勢を知る	
	14	福祉計画の目的と意義、住民参加				ニュース・新聞等で自治情勢を知る	
	15	まとめ 振り返り					
評価方法	(1)授業の中でミニレポートや小テストを実施する。(2)グループワークを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 ※定期試験の解答欄に空欄があった場合は、1つにつき5点の減点とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				68%
	小テスト・レポート	◎	○				15%
	グループワーク・発表	◎	○		◎	○	17%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	相談援助演習Ⅴ(子ども家庭支援の心理学)						
科目名(英)	Exercises of Social Work Ⅴ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山八保子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	この科目は、社会福祉士の養成科目であるが、社会福祉科は保育士を同時に取得する学科であり、学生の大半は児童関係の仕事に就きたいと考えている。したがって、3年の夏に実施される「保育士」資格を取得するための「保育実習(施設)」と「保育実習Ⅲ」(施設実習)の指導を行う科目と位置づけている。具体的には、相談援助実習指導Ⅳやいくつかのスクーリングと連動して、児童福祉施設の基本的知識、特に施設の目的や対象児童の特徴、職員の職種と仕事内容、歴史、支援内容、課題等について学び、児童施設実習がより有意義になるように指導を行う。						
授業形式	講義:	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		△		児童養護施設についての基本的知識について学び、説明できる。	
		○		△		その他の児童福祉施設についての知識について学び、説明できる。	
		○		△		児童福祉施設で働く職員について学び、自分自身についての理解を深める。	
		○		△		実習に向けての意識と自覚を高め、実習に前向きに取り組めるようになる。	
		○		△		児童福祉施設の児童や利用者への支援内容について理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』石橋裕子・林行範著 同文書院 『よくわかる社会福祉第10版』山懸文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房 卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』実習指導資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	児童養護施設の理解～施設の概要を熟読する				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料	
	2	児童養護施設の理解～施設の概要を説明する(発表)				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料	
	3	児童福祉施設の理解～施設の概要を調べる				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料を基にパワーポイント作成	
	4	児童福祉施設の理解～施設の概要を調べる				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料を基にパワーポイント作成	
	5	児童福祉施設の理解～施設の概要を調べる				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料を基にパワーポイント作成	
	6	オリエンテーションの指導				プリント	
	7	児童福祉施設の理解～施設の概要発表①乳児院				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	8	児童福祉施設の理解～施設の概要発表②児童自立支援施設				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	9	児童福祉施設の理解～施設の概要発表③児童心理治療施設				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	10	児童福祉施設の理解～施設の概要発表④母子生活支援施設				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	11	児童福祉施設の理解～施設の概要発表⑤障害児入所施設				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	12	児童福祉施設の理解～施設の概要発表⑥児童発達支援センター				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	13	実習日誌の指導～考察をどのように日誌に書くか				映像を見て記録を書く	
	14	日誌の指導、直前指導				前回の記録の添削より	
15	実習1回目の振り返り				実習の振り返り		
評価方法	(1)授業の出席状況。 (2)調べ学習への取り組み状況と理解度。 (3)調べ学習の内容を試験の代わりとするため試験は行わない。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	調べ学習①	◎	◎		◎		30%
	調べ学習②	◎	◎		◎		50%
	発表・グループワーク	○	◎		◎		10%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価の対象としない。						

科目名	就職実務Ⅱ						
科目名(英)	employment practical affairsⅡ						
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	川原 ゆり
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	障害児治療教育センター相談員・養護教員
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	就職活動に伴う意欲・心構えの向上を目指し、就職への意識を高める。就職活動に必要な求職票受付面接への指導や、履歴書の作成の仕方、社会人としてのマナーの学習や今後の人生設計や社会人生活について深く考える。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○	○		求職票受付面接に合格する。また、受験に必要な際の求職票を完成させる事が出来る	
		◎		◎		何の為に働くのか何故、この職種につきたいかなど自分の就職に対しての考えを明確にする事が出来る	
	◎					就職活動に関する一連の流れを理解する事ができる	
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	求職票受付面接について				求職票を持参する	
	2	就職活動の流れについて				就職ノートを持参する	
	3	作文教室					
	4	働く事について考える					
	5	求職票受付面接を踏まえての自己分析について				適正検査の結果を持参する	
	6	履歴書作成				履歴書を用意する	
	7	就職試験について					
	8	就職試験対策					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)授業の出席 (2)授業に対しての意欲・関心・態度 以上を以下の観点・割合で評価する。評価を行う成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業の出席				○	○	50%
	意欲・関心・態度				○		50%
履修上の注意	出席が3分2以上なければ単位習得不可とする						